

令和 8 年度自転車活用推進功績者表彰受賞に係る市長訪問について

●概 要

この度、益田市の推薦により「令和 8 年度自転車活用推進功績者表彰」を受賞された「特定非営利活動法人 益田市・町おこしの会」理事長の齋藤 勝廣氏が山本市長を表敬訪問されます。

詳細については下記のとおりとなります。

●詳 細

1. 日 時：令和 8 年 6 月 23 日(火)13 時 00 分～13 時 15 分
2. 場 所：益田市役所 本庁舎 2 階応接室
3. 訪問者：特定非営利活動法人 益田市・町おこしの会 理事長 齋藤 勝廣氏

●その他

- ・添付資料「功績調書」

様式 2（団体・地方公共団体）

自転車活用推進功績者表彰 功績調書

推薦者名 (各都道府県等・ 各府省庁等)	島根県益田市		
ふりがな 団体名 地方公共団体名	えぬびーおーほうじんますだし まち NPO法人益田市・町おこしの会	ふりがな 代表者名	りじちよう さいとう かつひろ 理事長 齋藤 勝廣
ふりがな 所 在 地	しまねけんますだし ほんまち ばんち 島根県益田市あけぼの本町2番地6		
略 歴	平成 24 年 1 月 18 日設立。 【益田の名前を全国へ発信】 益田を活性化するには、まず、益田の名前を全国の方に知っていただくことが第一と考え、自動車が少なく、道路が整備された益田の環境が最適である“自転車”に的を絞り、当時全国に 3 0 0 万人いると言われたスポーツ自転車愛好家へ益田を発信するために、ファンライド「益田 I・N A・K Aライド」等の開催や「全日本自転車競技選手権大会ロード・レース」を誘致。 【益田プレミアムブランド】 益田地産の付加価値の高い食材を「益田プレミアムブランド」として、都内有名レストラン等へ紹介するなど、益田の名前と素晴らしい食材を全国へ発信する活動を継続している。		
表 彰 歴	表彰暦なし		
表彰理由	表彰要領 2（ 5 ）に該当するため。		
功績内容	①活動の内容 ○ファンライド「益田 I・N A・K Aライド」の開催 益田市が誇る 100km 走っても信号で止まる回数がゼロの「100ZERO コース」を中心に、全国でも珍しい空港の滑走路を取り入れたコースを走るサイクリングイベントを開催。行政に頼らず、民間主導で開催されている。 ○ロード・レース大会「益田チャレンジャーズステージ」と 「全日本自転車競技選手権大会」の開催 「益田チャレンジャーズステージ」は世界を目指す若者たち（U23, 19, 17）に多くの実戦経験を積んでもらい、近い将来、日本を代表する選手を育てるために開催する“若きチャレンジャー”のための大会。運営の評価が高く、平成 28 年からは全日本自転車競技選手権大会ロード・レ		

	ースのジュニアの部として開催。また平成 30 年には、同選手権大会のエリートからジュニアまでのすべてのカテゴリーを同コースで開催した。
	②活動の経緯及び効果
	○開催実績は 10 回以上 ファンライド「益田 I・NA・KAライド」 NPO 法人益田市・町おこしの会の呼びかけにより、多くの地域住民や地元企業、地元サイクリングチームなどのボランティアによって運営されてきた。特に中学校の吹奏楽や地域住民の沿道での応援、エイドステーションでの益田産食材で作られた食事や飲み物の提供などのおもてなしは、参加者からの評価が高い。沿道での応援は、参加者に元気を与える一方で、参加者が益田のファンになり、大会以外にもサイクリングや観光で益田に来ていただいている。エントリー数は年々増加傾向にあり、全国各地からのサイクリストが益田に来て宿泊し、食事をし、市民と交流することで波及する経済効果は大きい。 イベント自体は定着してきたが、コース設定やエイドステーションの場所、おもてなし内容は常に改善されており、進化と深化を見せている。コロナ禍以降、航空機発着時間の関係で見送られていた空港滑走路の走行も、令和 5 年度より、イベントを 2 日開催としたことで 5 年ぶりに復活。開催期間前後は、萩・石見空港発着便がほぼ満席になるなど、地方空港を核とした地域振興・地域活性化に寄与している。2026 年第 13 回益田 I・NA・KA ライドは、令和 8 年 9 月 20 日（土）を予定。 ○益田市の名前を全国へ、そして世界へ発信 ロード・レース大会「益田チャレンジャーズステージ」を、平成 25 年のプレ大会を皮切りに、平成 26 年から平成 29 年まで、4 回の大会を開催。東京オリンピック開催時に中心世代となる U23、U19、U17 のロード・レース選手の育成のため、西日本では数少ないロード・レース大会を一般公道通行止めにより開催した。コース監修は、サイクルロードレースチーム「エキップアサダ」の代表取締役兼監督であり、ロード・レース界では著名な浅田顕氏。平成 28 年、平成 29 年は JCF の全日本自転車競技選手権大会（U19、U17+15）として開催した。 平成 30 年には、NPO 法人としては全国で初めて、第 87 回全日本自転車競技選手権大会ロード・レースのエリートからジュニアまでのすべてのカテゴリーでの大会誘致に成功。これまでロード・レースを見たことが無かった多くの市民が大注目し、会場に駆け付けた。 こうした民間の動きを受け、益田市としても自転車によるまちづくりを市の施策として掲げ、令和 2 年度には益田市自転車活用推進計画を県内の自治体として初めて策定したほか、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて自転車競技ロード・レースの事前キャンプ誘致に取組み、令和 3 年に東京 2020 大会に向けたアイルランドパラリンピック自転車競技選手団の事前キャンプを受入れた。アイルランドとは大会終了後も大会のレガシーとして末永い交流を続けていくこととしている。 これまでの NPO 法人益田市・町おこしの会の取組が、市としての取組につながり、最近で

	はサイクリングに興味を持った市民が少しずつ増え、日常的に市内でサイクリストを見かけることが多くなるなど、地域の活性化にもつながっている。
--	--